

令和4年度

第2回家庭教育支援連絡会会議録

1 日時

令和5年3月27日（月）午後3時～4時

2 場所

市役所議会棟4階 第I・II会議室

3 出席委員

堀委員長、田中委員、笠間委員、鍵崎委員、島津委員、岩本委員、
原委員、東田委員、本水委員

4 欠席委員

甲斐委員、新宮委員、春日副委員長

5 事務局

大野課長、三河係長、伴、川上

6 会議次第

(1) 開会

① あいさつ

(2) 案件

① 家庭教育学級について

② 寝屋川市家庭教育サポートチームについて

③ ねやがわ子どもフォーラムについて

④ その他・情報交換

会議録

1 開会

青少年課三河係長より欠席委員の連絡の後、堀委員長の進行により会議が開催された。

2 案件

(1) 家庭教育学級について

家庭教育講座

今年度は8小学校での開催となった。

講座の内容は、SNS など「家庭での情報モラル」が人気で、対面とオンラインの併用で受講しやすく開催した。

(2) 家庭教育支援者スキルアップ講習会

市内の家庭教育支援者、またこれから家庭教育支援者として活動する方を対象に、スキルアップを目的として令和4年12月7日、14日、21日の3日間6講座を実施。講習会受講者の中から、次年度の「家庭教育サポーター」の希望者を募り、ご応募いただいた中から24名の家庭教育サポーターが決定した。

3 寝屋川市家庭教育サポートチームについて

今年度も市内24小学校に1名ずつ、家庭教育サポーターを配置。

地域や関係機関と連携しながら、保護者のよき相談相手になり、家庭の健全化を図り、子どもの生活改善につながるよう活動。

活動実績として、令和5年1月現在で、電話相談2,025回、学校面談1,501回、家庭訪問2,128回、児童対応8,471回になる。

4 ねやがわ子どもフォーラムについて

開催日：令和5年2月12日（日）

講師：京都精華大学 人間環境デザインプログラム 教授ウスビ・サコ氏
ご自身の育ったマリ共和国での暮らしや、日本の文化との違いなどを、楽しいエピソードを交えながらお話しいただいた。

アンケートの回答には、「グローバル化される世界で、楽しくお話しただ

いたので、良かった。」や、「とても聞きやすく、楽しいお話だった。」等の声があった。

5 その他・情報交換

【民生委員・児童委員協議会】

コロナ禍で、止まっていた民生委員の活動が動き出した。

市内 24 小学校に 1 名ずつ主任児童委員がおり、前向きに研修等をやりたいと声が上がっている。

【こどもを守る課】

今年度、通告件数が増えているが、中でも面前DVがすごく増えている印象がある。多少なりともコロナ禍で閉じこもっていた、その辺が影響しているのか、日々対応に追われている。

対象者に対し、どの様にケアし、指導をしていくか、日々考えながら対応している。

【こどもセンター】

こどもセンターは、午前、午後とも 20 世帯ずつの予約制。今年は閉めることなく、1 年間開けることができた。身体計測をして相談できるところは人気で、すぐに満員になる。

いろいろなお子さんと出会って、遊ぶ楽しさを知ってもらいたい。

お父さん達の「おしゃべり会」を今年は開催したが、参加者から好評なので、また開催したいと思う。

4 月 1 日に、こどもセンターは移転して、中央幼稚園の教室を使わせていただき、こどもセンター事業は変わらずに行う。

今後は、こどもセンターの名前が変わり、「親子ほっとステーション」という名前で進めていく。

【家庭教育サポーター】

・前年度から配置校が変わり、いろいろなお子さん達と関わり感じたことだが、休み時間に高学年のお子さんが、みんな教室で遊んでいることに少し違和感を覚えた。

6 年生の担任に尋ねたところ、「コロナ禍で、教室で遊びなさい。ということが多くなり、それがきっかけなのか、なかなか外に行こうとしなくなったかもしれない。」そういう言葉を聞いた。

そんな中で、6年生が今年、無事卒業式を迎えることができ良かったと思った。

・コロナの影響もあるかと思うが、全体的に落ち着きがないのは感じている。一年生も最初に比べると落ち着ついたが、勝手に教室を出て行く状況はそのままです。

コロナの感染予防が緩和されてくるに従って、サポーターと家庭との繋がりが増えてくれば、お母さんたちの悩みや困り感とか聞けるのではと思っている。

次年度は、学校行事も徐々に戻ってくると聞いているので、保護者と関わりを持てるような状態が、戻ってくればいいなと思い、活動していた。

・ご家庭によっては、両極端であるなと思われることが多々あり、子どものことをすごく不安視されて、転ばぬ先の杖を何本もだす家庭で、お母さん達が子どもの成長する機会を、止めているところもあると感じることがあった。また、反対に全く学校からの連絡を取らない、繋がらない家庭もあり、その場合、祖母と相談する家庭が何件かあった。

両極端な家庭に接している私達サポーターは、場合によっては色々な言い方で、人によって違うことを言っているのではないかと思うこともある。

・個性豊かな家庭が多いので、対応がすごく大変だと思いますが、寄り添って話を聴くだけでも、お母さん方は、ほっとされるのではないかと思うので、これからも寄り添えるサポーターでいたいと思っている。

・子供食堂を広げていこうという動きがあり、各小学校区に一つは作っていききたいと、子供食堂ネットワーク会議を開催している。

それぞれの地域に子ども食堂が広まれば、お母さんと子どもが来た時に、話せる場所であるように、子供食堂が広がっていけばいいなと思っている。

【幼稚園】

令和4年の運動会が、保護者も参加で日曜開催ができたこと、卒園式に来賓も呼び開催できたことが、コロナ禍が少しずつ収束していった様で、とてもうれしいことかなと思う。

令和5年度に関しては、こどもセンターの機能が中央幼稚園に入ってくるが、園児の人数が少なくなり、5歳児のみで4歳児の募集はしていないので、こどもセンターの小さい子が増えることを子ども達はとても楽しみに

している。

【小学校】

現在の様に、すべての小学校に家庭教育サポーターを配置されているこの現状について、本当に寝屋川市にお礼申し上げます。

家庭教育サポーターの方に関わっていただいたことがきっかけになって、不登校が登校できる様になり、長欠が減ってきたとか、明らかに成果は上がっていると思う。むしろ、今後この家庭教育サポーターの制度が、なくなってしまうと、学校は、かなりしんどいのではと心配するぐらいになってきている。

保護者にお話をしていく機会を進めていただく取り組みは、今後もっと大切になってくるのかなというふうに感じている。